

転写資料記述のための 概念モデルの設計について

A Conceptual Model Design for the Description of Copied Materials

鈴木卓治

SUZUKI Takuzi

- ①はじめに
- ②概念モデルの出発点
- ③デジタルデータの現状
- ④転写資料記述の基本設計
- ⑤主情報と格納情報
- ⑥格納情報について
- ⑦作成情報
- ⑧表現情報
- ⑨原資料情報
- ⑩転写資料の記述法の一提案
- ⑪転写資料記述の例
- ⑫おわりに

〔論文要旨〕

本稿は、人間文化研究機構国立歴史民俗博物館共同研究「デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究」（代表：安達文夫，平成19～21年度）の成果として公表した、「転写資料記述のための概念モデル（以下、本モデルと略記）」の設計についての論考である。

本モデルの出発点として、デジタルデータを資源化する最も簡易な方法としての「データを段ボールに収めてラベルを貼る」という考え、および博物館で作られるデータを「転写資料」とみなすこと、の2つのアイデアを提示し、ラベルの記述をイコール転写資料の定義とみなすことで、アイデアを融合させることができることを導いた。

転写情報の具体的な記述法について考察し、その一例を提示した。転写資料の記述は、ラベルと転写資料の1対1対応を表すIDならびに主情報、原資料情報、作成情報、表現情報、格納情報の5種類の情報から構成される。これらはそれぞれ、・その転写資料がどういうもので、・そのおおもとの資料は何で、・転写元はどれで、・どういう内部構造をもっていて、・どこにしまわれているか、を表わしている。

この記述法にもとづく転写資料記述の例として、歴博で作成した江戸図屏風（六曲一双）のデジタルコンテンツを作成するために派生したデータとその関係を表わす記述例を示した。複雑な作成過程を経て作られるデジタルコンテンツの、作成の各段階で派生して作られるデータの内部構造や格納場所に関する情報について、ラベルの集まりの形で適切に書き表すことができることを示した。
【キーワード】 転写資料、情報記述、概念モデル、デジタルデータ、博物館資料、情報の資源化